

インターバンクの声（2015 年 1 月 6 日）

為替ディーラーだけでなく、金融に携わる多くの人たちにとっては正月気分をゆっくり味わうどころではないが、市場も新年早々から大きく動いている。何と言ってもユーロの下落が目立っているが、昨夜も WTI 先物相場が一時 50 ドルを割り込み、少し話題から遠のいていた感もあるロシアの経済危機問題も再度クローズアップされそう。さらにユーロ圏からの離脱をドイツ政府が容認する方針すら報じられているように、25 日に行われるギリシャの総選挙の結果によっては、ユーロにとってはさらに思いがけない先行き展開が待っているかも知れない。原油価格の下落が最も影響していたようだが、ニューヨーク株式市場でもダウが大きく値下がりした。これだけの材料が並んでしまうと、どうしても市場の動きは不規則になってしまう。ドルの先高観をベースにしたユーロ売りは仕掛け続け易いところだが、対円の取引については、しばし 120 円台では上値が重くなっているようだ。株価を見ながらにはなるが、119 円台前半を割り込むようであれば 50 銭程度の利幅を狙ってドル売りに行くか、やはり正攻法としてこの値下がり絶好の買い時と捉えるべきか悩ましい日になりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。